



SDS No.: 019100081A03
作成日: 2018年3月22日
改訂日: 2025年5月22日
対応版: GHS 6版

安全データシート(SDS)

1/6

1. 化学品等及び会社情報

化学品の名称: スワブカラー-PYR
製品コード: 019-100081
供給者の会社名: 株式会社アクテック
住所: 埼玉県北足立郡伊奈町小室7044番地
電話番号: 048-796-7831
ファックス番号: 048-796-7832
推奨用途: 被検菌のPYRase活性の検出

2. 危険有害性の要約

本製品は複数の構成成分からなるキット製品のため、各構成成分毎に情報を提示する。

<テストスワブ>

GHS分類 該当しない

<添加試薬1>

GHS分類 該当しない

<添加試薬2>

GHS分類

物理化学的危険性 金属腐食性 区分1

健康に対する有害性 皮膚腐食性/刺激性 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1
呼吸器感作性 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2

環境に対する有害性 水生環境有害性(急性) 区分2

GHSラベル要素

絵表示
(ピクトグラム)



注意喚起語
危険有害性情報

危険
H290 - 金属腐食のおそれ
H315 - 皮膚刺激をおこす
H318 - 重篤な眼の損傷をおこす
H334 - 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
H401 - 水生生物に毒性
H371 - 以下の器官を損傷するおそれがある: 呼吸器系
H373 - 長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じるおそれ:
歯, 呼吸器系

注意書き
安全対策

- ・取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用する。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。
- ・環境に放出しないこと。
- ・ほかの容器に移し替えないこと。

応急措置

- ・ばく露した、もしくは気分がすぐれない場合、毒劇物センターもしくは医師に連絡すること。
- ・眼に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。
- ・ただちに医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合、多量の水と洗剤で洗浄する。
- ・皮膚に炎症が出た場合、医師の診断、処置を受けること。
- ・汚染された衣服を脱ぎ、再利用前に洗濯すること。

安全データシート(SDS)

応急措置	・吸入し、呼吸が困難な場合、患者を新鮮な空気のある場所に避難させ、呼吸が楽な姿勢で休息をさせること。 ・呼吸器系の症状がある場合、毒劇物センターもしくは医師に連絡すること。 ・材料損傷を避けるために、漏出物を吸着させること。
保管 廃棄	耐腐食性/耐腐食性内貼りのある容器に保管すること。 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

3. 組成及び成分情報

<添加試薬2>

混合物(製品)の区別	混合物
混合物(製品)名称	添加試薬2
混合物(製品)一般名称	
混合物(製品)慣用名	
混合物(製品)別名	
混合物(製品)を特定できる一般的な番号(CAS RN)	
混合物(製品)を特定できるその他の番号	
成分及び濃度又は濃度範囲	
組成物質(1)	塩化水素(8.3%)(CAS RN:7647-01-0)
組成物質(2)	4-ジメチルアミノシンナムアルデヒド(1.0%)(CAS RN:6203-18-5)
組成物質(3)	水(91.7%)(CAS RN:7732-18-5)
官報公示整理番号(化審法)	化審法官報整理番号(3-1187)【4-ジメチルアミノシンナムアルデヒド】 化審法官報整理番号(1-215)【塩化水素】
官報公示整理番号(安衛法)	安衛法官報整理番号(公表化学物質)【4-ジメチルアミノシンナムアルデヒド】 安衛法官報整理番号(公表化学物質)【塩化水素】

4. 応急措置

<添加試薬2>

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡し、処置を受ける。
皮膚に付着した場合	すべての汚染された衣服と靴を脱ぎ、大量の水ですぐに洗浄すること。皮膚への刺激が続く場合、医師に連絡し、処置を受ける。
眼に入った場合	すぐに大量の水で少なくとも15分間は洗浄を続けること。洗浄中には、眼をしっかりとあけること。コンタクトレンズを装着している場合、容易に取り外せるのであれば外す。眼科医の処置を受ける。
飲み込んだ場合	ただちに医師に連絡し、処置を受ける。口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

<添加試薬2>

適切な消火剤	水噴霧、粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素等、現場状況と周囲の環境に適した消火方法を行うこと。
使ってはならない消火剤	利用可能な情報はない。
火災時の特有の危険有害性	熱分解により刺激性で有毒なガスや蒸気を放出することがある。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置	個人用保護具を着用すること。消防士は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

<添加試薬2>

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	全ての着火源を断つ。周囲に注意喚起し、避難させる。漏出区域に入るときは保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。その他の環境情報については12項を参照。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。
二次災害の防止策	環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。



SDS No.: 019100081A03
作成日: 2018年3月22日
改訂日: 2025年5月22日
対応版: GHS 6版

安全データシート(SDS)

3/6

7. 取扱い及び保管上の注意

<添加試薬2>

取扱い

技術的対策 アルカリ性物質との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。
注意事項 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んで서는ならない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

安全取扱注意事項 容器を開けたままにしない。容器を接地しアースを取る。飛沫を避ける。接触を避ける。圧縮空気で輸送してはならない。使用時は十分な換気を行うこと。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保管

安全な保管条件 直射日光を避け、冷暗所(2~8℃)に密閉して保管する。
安全な容器包装材料 ポリエチレン、ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

<添加試薬2>

管理濃度 未設定

許容濃度等

日本産衛学会(2022年版) 許容濃度: 2 ppm, 3 mg/m³(-)
ACGIH(2022年版) TLV-STEL: 2 ppm

設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

保護具

呼吸用保護具 (酸性ガス用)防毒マスク
手の保護具 不浸透性保護(化学防護)手袋
眼の保護具 側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具 長袖作業衣, 保護長靴

適切な衛生対策

使用時には飲食、喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

<添加試薬2>

物理的状態

物理状態 液体(20℃、1気圧)
色 淡黄色
臭い 刺激臭
pH 0(強酸性)
融点/凝固点 データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲 データなし
可燃性 不燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 データなし
引火点 データなし
自然発火点 データなし
分解温度 データなし
動粘性率 データなし
溶解度 水:(任意の割合で混和)
n-オクタノール/水分配係数 データなし
蒸気圧 データなし
密度及び/又は相対密度 データなし
相対ガス密度 データなし

10. 安定性及び反応性

<添加試薬2>

反応性 金属酸化物と反応し塩化物を生じる。
化学的安定性 推奨保管条件下で安定である。
危険有害反応可能性 多くの金属を腐食し、水素ガスを発生する。
避けるべき条件 直射日光、高温



SDS No.: 019100081A03
作成日: 2018年3月22日
改訂日: 2025年5月22日
対応版: GHS 6版

安全データシート(SDS)

4/6

混触危険物質
危険有害な分解生成物

金属類、塩基類、酸化剤
塩素、水素

11. 有害性情報

<添加試薬2>

急性毒性

経口

区分に該当しない

CAS番号:7647-01-0(毒性値=238mg/kg 含有率=3.6% 出典:NITE)は区分3に該当するが、含有量から算出した毒性値より区分に該当しないに該当。

経皮

区分に該当しない

各成分の含有量から算出した毒性値より区分に該当しないに該当。

吸入: ガス

区分に該当しない

GHS定義による気体ではなく、分類対象外

吸入: 蒸気

分類できない

既知の成分がすべて区分に該当しない(分類対象外)のため、区分に該当しない(分類対象外)に該当。

吸入: 粉じん及びミスト

区分に該当しない

CAS番号:7647-01-0(毒性値=0.42mg/l 含有率=3.6% 出典:NITE)は区分2に該当。含有量から算出した毒性値より区分5に該当。対象国危険有害性区分補正処理により区分5から区分に該当しないに変更。

皮膚腐食性及び皮膚刺激

区分2

CAS番号:7647-01-0(含有率=3.6% 出典:NITE)は区分1に該当。加成方式が適用できる成分からの判定で濃度限界(10%)以上のため、区分2に該当。危険有害性情報:H315 皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

区分1

CAS番号:7647-01-0(含有率=3.6% 出典:NITE)は区分1に該当。加成方式が適用できる成分からの判定で濃度限界(3%)以上のため、区分1に該当。危険有害性情報:H318 重篤な眼の損傷。

呼吸器感受性

区分1

CAS番号:7647-01-0(含有率=3.6% 出典:NITE)は区分1に該当。CAS番号:7647-01-0が3.6% \geq 1%のため、区分1に該当。危険有害性情報:H334 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。

皮膚感受性

区分に該当しない

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。

生殖細胞変異原性

分類できない

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。毒性が未知の成分を3.6%含有。毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

発がん性

区分に該当しない

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。

生殖毒性

分類できない

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。毒性が未知の成分を3.6%含有。毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

区分あり

CAS番号:7647-01-0(含有率=3.6% 臓器=呼吸器系 出典:NITE)は区分1に該当。3.6% \geq 1%のため、区分2(呼吸器系)に該当。危険有害性情報:H371 呼吸器系の障害のおそれ。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)(1)

区分2

呼吸器系

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

区分あり

CAS番号:7647-01-0(含有率=3.6% 臓器=呼吸器系 出典:NITE)は区分1に該当。3.6% \geq 1%のため、区分2(呼吸器系)に該当。危険有害性情報:H373 長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器系の障害のおそれ。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)(1)

区分2

歯

呼吸器系

特定標的臓器毒性(反復ばく露)(2)

区分2

歯



SDS No.: 019100081A03
作成日: 2018年3月22日
改訂日: 2025年5月22日
対応版: GHS 6版

安全データシート(SDS)

5/6

12. 環境影響情報

<添加試薬2>

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) 区分2
成分濃度から算出した判定で濃度限界(25%)以上のため、区分2に該当。
水生環境有害性 長期(慢性) 区分に該当しない
成分濃度から算出した判定で濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないに該当。

オゾン層への有害性

分類できない
データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物(化学品)
汚染容器及び包装

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

<添加試薬2>

国際規制

国連番号 1789
品名(国連輸送名) HYDROCHLORIC ACID
国連分類 8
副次危険
容器等級 III
海洋汚染物質 非該当
MARPOL73/78附属書II 汚染物質カテゴリ: Z
及びIBCコードによるばら積み
輸送される液体物質

国内規制

海上規制情報 船舶安全法の規定に従う
航空規制情報 航空法の規定に従う。
陸上規制情報 道路法、消防法、毒物及び劇物取締法の規定に従う。
157

15. 適用法令

<添加試薬2>

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条)
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2)
特定化学物質第3類物質(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第6号)
皮膚等障害化学物質等(規則 第594条の2 第1項)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

消防法

非該当

海洋汚染防止法

施行令別表第1 有害液体物質 Z類物質

航空法

腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)

危険物船舶運送及び貯蔵規則

腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)

水質汚濁防止法

指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)

輸出貿易管理令

非該当

大気汚染防止法

特定物質, 有害物質

16. その他の情報

参考文献

日本産業規格 JIS Z 7253(GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS))
NITE-Gmiccs(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
職場のあんぜんサイト(厚生労働省)
RTECS(化学物質毒性データ総覧) その他

免責事項

本SDSはJIS Z 7253に準拠して作成しています。内容は、改訂日における最新の情報に基づいて作成してい



SDS No.: 019100081A03
作成日: 2018年3月22日
改訂日: 2025年5月22日
対応版: GHS 6版

安全データシート(SDS)

6/6

ますが、新たな情報を入手した場合には追加又は訂正することがあります。また記載内容は通常の取扱を対象としたものであって他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。本書記載内容は、安全な取扱い等に関する情報提供を目的としており、保証をなすものではありません。まだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取扱いには十分ご注意ください。